

## つながる想い

チーム名 四万十川を守り隊

学校名 四万十高等学校

### 1 活動の目的

私たちの高校がある四万十町は、四万十川のある自然豊かな町です。今回E C O応援隊の活動内容を考えた時に、この町をもっと活気と人のつながりがある町、そして自然を守れる町にしたいと思いました。そこで、地域の方々と交流し、四万十川の自然を守ろうと、①四万十地域の動植物の多様性を守る・②清掃活動を行い、生態系を守る・③活動をともに行い、地域の人たちとつながりを作るという目標を設定しました。

### 2 活動内容

#### (1) 呼びかけ

まず私たちは地域の清掃活動を行うことにしました。そこで、5月26日の大正地区育成委員会でE C O応援隊の活動説明と、清掃参加の呼びかけをしました。(写真①)

#### (2) 清掃活動(1回目)

6月5日に、高校がある大正地区の熊野神社と大正駅を清掃しました。四万十高校生3人、大正連合婦人会2人、アユ祭り実行委員会1人、大正ボランティア委員会2人の計8名が参加してくれました。清掃終了後、地域の方の意識調査を行いました。(別紙①・写真②・③)

#### (3) 道の駅とおわでアンケート

次に高知県内、県外の人々の環境に対する意識調査をしたいと思い、多くの人が集まる道の駅とおわで7月24・25日の2日間アンケートを実施しました。(アンケート用紙は別紙①と同じ、写真④・⑤)

#### (4) 第2回研修会・会議

8月3日の第2回研修会・会議で、活動に対するアドバイスを受けました。私たちは地域と触れ合うこと、豊かな自然を守ることという2つのテーマで活動していましたが、やりたいことが多すぎだったので、数を少なくして2つのテーマを関連付けすれば良いのではないかと指摘されました。そこで話し合った結果、テーマを絞り、対象を限定しようということになりました。四万十川を守り隊の名の通り、川のことについて取り組んでいくことにしました。(写真⑥)

#### (5) 四万十合宿

8月9～11日に四万十町で行われた四万十合宿では、「持続可能な里海づくり」や「森・川・海のつながりと地球温暖化」の講演を聞き、森・川でのフィールドワーク、活動の中間発表を行いました。

### (6) アユ祭り

四万十町では毎年夏に大正アユ祭りが開催されます。この祭りには多くの人々が参加するため、8月22日のアユ祭りで私たちがこれまで行ってきた活動を知ってもらおうと模造紙にまとめて掲示しました。興味を持ってもらえた人には、説明もしました。そして、通りかかった人に川原の石に環境に対する思いを書いてもらいました。(写真⑦)

### (7) ジュニアリーダー

夏休み終盤の8月25・26日には、地域の小学生と一緒に体験学習をするジュニアリーダーの活動で、ウェル花夢で合宿を行いました。そこで、小・中学生の環境に対する意識調査を実施しました。(別紙②)

### (8) 清掃活動(2回目)

9月25日に第2回目の清掃活動を行いました。清掃場所は昭和地区の交流センターと、十川地区の星神社とこいのぼり公園でした。清掃活動には十川こだま会の方が3名参加してくれました。(写真⑧・⑨) 清掃終了後、地域の方の意識調査を行いました。この清掃で私たちは「ミラクルやまちゃん」の存在を覚えてもらいました。

### (9) 「ミラクルやまちゃん」聞き込み調査&製作

まず「ミラクルやまちゃん」とは何かを、これを作っている大正地区のやまびこ作業所に、実際に聞きに行きました。「ミラクルやまちゃん」とは、愛媛県産業技術研究所(旧愛媛県工業技術センター)で開発された環境浄化微生物「えひめA I (アイ) -2」のことだそうです。四万十町産のものを、「ミラクルやまちゃん」と言います。砂糖、ヨーグルト、ドライイースト、納豆、水から作られ、環境に優しい洗剤、消臭スプレー、肥料などとして使用できます。実物を見て、簡単な作り方だったので、自分たちで作って文化祭で配布しようということになりました。

### (10) 文化祭

10月9・10日に四万十高校の文化祭が行われました。私たちは、四万十合宿から第2回清掃までの活動を模造紙にまとめ、アユ祭りで作成した模造紙と共に展示しました。それと、文化祭1週間前に自分たちで作った「ミラクルやまちゃん」をペットボトルに入れ、説明をしながらチラシと一緒に配布しました。(写真⑩・⑪・⑫)

## 3 地域の人々と協働して取り組んだこと

私たちはこれまで色々な活動を行い、地域の人々にアンケートに協力してもらったり、アユ祭りや文化祭で展示を見てもらったりしました。また、大正のやまびこ作業所の方には「ミラクルやまちゃん」の作り方を指導してもらいました。

それらの活動の中でも、最も地域の人と協働して取り組めたのは清掃活動だったと思います。1回目も2回目も私たちの呼びかけで、地域の婦人会や委員会の方が他の人に声をかけて人を集めてくれました。参加してくれた人はとても優しく協力的でした。

## 4 活動の結果

### (1) アンケート結果

#### ①清掃活動に参加してくれた地域の方

参加してくれた方の年齢は、高齢者の方が多かったです。「自然環境に興味があるか」という質問に対しては九割以上の人が「はい」と答えていました。

#### ②道の駅とおわ

アンケートに答えてくれた人は49人で、30代以上の方が多かったです。出身は高知県内が25人、県外が24人でした。その中で、「自然環境に興味があるか」という質問に「はい」と答えた人は47人で圧倒的に多かったです。

「どんな環境問題に興味があるか」という質問の答えは、「川や海の汚染(18人)」、「ゴミ問題(9人)」、「自然保護(7人)」、「温暖化(5人)」が多かったです。

「環境問題解決のために高校生や地域の方々と一緒に活動するとしたら」という質問で最も多かったのは「ゴミ拾い(20人)」で、次に「清掃活動(10人)」、「川の清掃(6人)」が続き、清掃活動を挙げる人が多いことがわかりました。他には、「自然についての学び・勉強(3人)」という意見もありました。

#### ③ジュニアリーダーに参加した小・中学生

アンケートに協力してくれた小・中学生は43人で、「自然環境に興味があるか」という質問に41人が「はい」と答え、若い世代も多くの方が興味を持っていることがわかりました。

「どんな環境問題に興味があるか」という質問の答えは複数回答可にして、最も多く選ばれたのが「ゴミのポイ捨て(31人)」、次に「川や海の汚染(20人)」、「温暖化(17人)」、「木の伐採(10人)」でした。

「環境問題解決のために高校生や地域の方々と一緒に活動するとしたら」という質問では、②の結果と同じで「ゴミ拾い(30人)」と答えた人が圧倒的に多かったです。

### (2) 清掃の結果

一番多かったゴミは空き缶やペットボトルでした。次に煙草の吸殻などの小さな紙片でした。その他には、ダンボールに缶や食品の包装紙などをまとめて詰めたもの、電池、タイヤ、パソコンの部品などがありました。

こうしたゴミは、イベントで使う公園にも多くありましたが、地域の人しか使わない場所にも捨ててありました。そして、多くのゴミがあまり目につかない場所に置かれていました。(写真⑬・⑭)

## 5 考察

先に挙げたアンケート結果(1)の①～③から、環境に対して興味・関心がある人が年代を問わず多いことがわかりました。また、その人たちが問題だと感じているのは「温暖化」や「異常気象」など現在ニュース番組などで取り上げられている地球規模の問題より

も、「ゴミ問題」や「川や海の汚染」など自分たちの生活により身近なことでした。そして「環境問題解決のために高校生や地域の方々と一緒に活動するとしたら」という質問には、これも年代を問わずほとんどの人が身近な「清掃活動」を挙げていました。

これらのことから、多くの人が普段の生活の中で目にしたり感じたりしている身近な環境問題に高い関心を持っていることが分かります。また清掃活動は、環境問題のために自分たちにできる一番簡単で取り組みやすい活動だと考えられていることが分かりました。地球規模の大きな問題に取り組んでいくことも大切ですが、より多くの人に行動をおこしてもらうためには、清掃という身近な活動から始めていく方が良いと思いました。

私たち四万十川を守り隊が清掃した場所には、観光やイベント参加のために訪れた町外の人捨てたゴミもあったと思いますが、地域の人捨てたと考えられるゴミの方が多かったです。日本最後の清流四万十川や豊かな森林があり、観光客も多く訪れる四万十町ですが、地域を活性化させるはずの自然を守る意識は高くないということになります。これは自然だけではなく、観光業や地域経済にも悪影響を及ぼすことにつながります。こうした現状や危険性を、地域の多くの人に知ってもらう必要があると考えました。その手段として、身近な清掃活動に参加して実感してもらうことや、展示・報告などの啓発活動が有効だと思います。

## 6 成果と課題

私たちはE C O応援隊の活動の中で様々な人と出会いました。清掃活動を通して地域には婦人会やボランティア委員会などの団体があり、その人たちと横のつながりを持つことが活動を広げる上でとても大切だと分かりました。そのつながりのおかげで、地域で作られている「ミラクルやまちゃん」の存在を知ることができました。また、呼びかけはポスターなどでも良いですが、自分たちで声かけや直接お願いしてみるほうが、こちらの気持ちが伝わって地域の方たちが参加してくれると感じました。このように、今回の活動では「想い」をつなげることの大切さを学べたと思います。

課題としては、私たちは考えるよりまず行動の意識が高く、行き当たりばったりの計画が多々ありました。1回目・2回目の清掃活動では現地の下見を行っていませんでした。どこにどんなゴミが捨てられているのか現場確認はしておいたほうがスムーズに清掃できたと思うので、今後に活かしたいです。また、2回目の清掃を運動会などの地域イベントがある日に設定してしまい、事前調査や呼びかけが不十分で参加者が少なくなった点も反省点です。

## 7 今後の取り組みについて

これからも環境問題に関心を持ち、地域の人たちとのつながりを大切に、「想い」を共有していきたいです。また、「ミラクルやまちゃん」の良さをたくさんの人に知ってもらうように、10月30日の最終発表で実物を持って行き宣伝したいと思います。

写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥



写真⑦



写真⑧



写真⑨



写真⑩



写真⑪



写真⑫



写真⑬



写真⑭





